

開講にあたって

「おげんきでられますけーのー」「お元気でいらっしやいますか」

「ひっさことごぶさたしたりしましたのー」「長い間ご無沙汰いたしておりましたね」

この「岡山弁会話入門講座」は、実に12年ぶりの開講ということになります。開講にあたり1986年版のテキストを若干加筆修正し、付録として例文対話を朗読したCDをつけました。岡山弁の学習がより容易になったことと思います。

人と人のコミュニケーションは言葉から始まります。おたがい理解しあうにはまず、相手の話す言葉を理解することが先決です。この講座では、誰もが岡山弁を聞き取り、話せるようになっていただくことをめざして、31課のカリキュラムを組んでいます。

会話表現の理解・基本文法の習得を中心に学習しますが、まず、付録のCDで例文対話に耳を傾け、解説を熟読したうえで、各課ごとの練習問題で反復トレーニングを重ねてください。時間の許す限り例文あるいは練習問題・解答を、実際に声に出して発音してみる。それこそが上達の早道となるでしょう。

岡山弁はもちろん日本語の一方ですが、ユニークで魅力あふれる言葉だと思えます。学習を重ねていくと、きっとその素晴らしさに気づかれるに違いありません。そうした意味からも、この講座は、ふだん特に意識しないで岡山弁を使っている岡山の方々にも、ぜひとも受講していただきたいものです。

なお、岡山弁とひと口に言いますが、細かく分ければ備前・備中・美作、さらに倉敷とか玉野・総社・下津井・津山などなど県内各地で違いが見られます。また、年齢層によっても当然変化があります。この講座ではとりあえず、もっぱら岡山市近辺を中心とし、青壮年が日常的に用いる言葉を「岡山弁」としてご紹介したつもりです。

12年ぶりの開講にいたるまで、たくさんの方々からはげましのお手紙や、さまざまなご意見・ご協力をいただきました。公民館講座や老人大学の受講生のみなさん、ほんとうにありがとうございました。このテキストの中でお気づきの点やご注文などありましたら、株式会社アスマまたは筆者までご連絡をいただければ幸いです。

この講座が、岡山を訪れる人々と地元・岡山の人々、お年寄りと若者、彼氏と彼女とのコミュニケーションの一助となることを願ってやみません。

1998年5月

青山 融

目次

第1課	2重母音①	せとねーけーのなげーはし	(瀬戸内海の長い橋)
第2課	2重母音②	しーびーおんせんにいきてーなー	(渋い温泉に行きたいなあ)
第3課	2重母音③	ことりのなめーがおべーてーなー	(小鳥の名前が覚えたいなあ)
第4課	曲用①	きびじゃーえーとこじゃなー	(吉備路はいい所だなあ)
第5課	曲用②	くらしきゅーたずねてーなー	(倉敷を訪ねたいなあ)
第6課	曲用③	うしまでーせーくりんぎーいこー	(牛窓へサイクリングに行こう)
第7課	曲用④	こーらくえんだきやーみとかにやー	(後楽園だけは見ておかないと)
第8課	代名詞	けーがももばたけじゃ	(これが桃畑だ)
第9課	存在・不在	きのじょーにやーおにがいった	(鬼ノ城には鬼がいた)
第10課	否定①	こめのなるきやーまだしらん	(米のなる木はまだ知らない)
第11課	否定②	びぜんやきやーわれりやーせん	(備前焼は割れはしない)
第12課	不可能	うしろやまにやーよーのぼらん	(後山には登れない)
第13課	進行形	きんこーざんにのぼりよーる	(金甲山に登っている)
第14課	過去形	たきよーぎよーさんこーた	(茸をたくさん買った)
第15課	完了形	こじまわんにながれこんどるか	(児島湾に流れ込んでる川)
第16課	連用形①	ままかりゅーつけてーてー	(ママカ리를漬けておいて)
第17課	連用形②	ごーけーのもみじがあこーなった	(豪溪の紅葉が赤くなった)
第18課	仮定形	るーとがふえりやーべんりーなる	(ルートがふえれば便利になる)
第19課	命令形	しづかうえーおよぎーいけー	(渋川へ泳ぎに行け)
第20課	断定	うまりやーそーじゃじゃそーじゃ	(生まれは總社だそうだ)
第21課	疑問	かぶとがにやーどけーすんどん	(カブトガニはどこに棲んでるの)
第22課	尊敬	ゆめじゅーしらびよーられる	(夢二を調べておられる)
第23課	使役	ひるぜんにいかしちやろーや	(蒜山に行かせてやろうよ)
第24課	丁寧	こぶんがよーけのこつとります	(古墳がたくさん残っています)
第25課	強調	でーれーふーりーてらじゃなー	(すごく古い寺だなあ)
第26課	意志	やまでひらみよーたびよーや	(山でヒラメを食べようよ)
第27課	打消推量	だんごひゃっかーたべれまー	(団子100個は食べられまい)
第28課	助詞①	おんせんばばーいきよーる	(温泉場ばかり行っている)
第29課	助詞②	いくらどーにいったがー	(井倉洞に行ったじゃないか)
第30課	並行動作	はたきよーあるきあるきおもーた	(畑を歩きながら思った)
第31課	慣用語	このかせーのられー	(この傘にお入りなさい)